

Q. IBD(炎症性腸疾患)の治療をしていますが、インフルエンザの予防接種をしてもよいですか？



A 可能です。

ワクチンを接種することは、インフルエンザを予防するために有効であり、IBDという持病を持っていて、特にステロイド(プレドニン®、ゼンタコート®)、アザチオプリン(アザニン®)、6-MP(ロイケリン®)、インフリキシマブ(レミケード®)やアダリムマブ(ヒュミラ®)、ゴリムマブ(シンポニー®)、ウステキヌマブ(ステラーラ®)、トファシチニブ(ゼルヤンツ®)、ベドリズマブ(エンタイビオ®)、タクロリムス(プログラフ®)などの免疫を抑える治療を受けている方は、感染を予防するために接種しておくことが望ましいです。ただし、これらの免疫抑制治療中の方ではワクチンの効果が落ちることも考えられます。

★妊娠中の方は、インフルエンザワクチン接種の危険性は低く、一般的には接種可能です。授乳中の場合も母乳の安全性に影響はないと言われています。

★引用 (厚生労働科学研究費補助 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班(鈴木班))

「-妊娠を迎える炎症性腸疾患患者さんへ- 知っておきたい基礎知識Q&A)」



北里大学北里研究所病院
Kitasato University Kitasato Institute Hospital